

GO! GO! よしひろ

Vol.25
MAR.2011

りん!



埼玉県議会議員

鈴木よしひろ活動レポート

第25号

平成23年(2011)3月発行

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-347 TEL.048-948-2070 FAX.048-948-2071

ホームページ <http://www.yosshisuzuki.com> E-mail yosshisuzuki@gmail.com

Think together
Go together

今、次に進める政策を語る。



埼玉県議会議員

鈴木よしひろ

鈴木よしひろ県議は、県議経歴12年。その間、行政の各分野を監査した経験をもとに、縦割りの行政の弊害を是正し、広い視点で行政分野を横断的にとらえた政策を構想しています。今回はそのポイントを語って戴きました。

Policy
1

21世紀を担う こころ豊かな人づくり

- 日本人の美風を再評価、国際的に尊敬される人材育成
- 行き過ぎた「ゆとり教育」を抜本改正・レベルアップ
- 小中一貫校、中高一貫校の設立、飛び級の導入
- 教師OJなどで放課後・休日学習サポート制度の導入
- 社会人への多様な人材育成・国際教育を充実

資源の無い日本の最大の資源こそは「人」。今後も国を維持発展させていくためには、いかに優秀な人材をつくらなければならないか、日本の未来に直結します。そういったことから、私はグローバル化した世界に通用する教育・人材づくりを政策の根幹に置くことを提唱します。

それでは世界に通用するとはどういうことか。それは英語が話せる、中国語が話せる、それだけではありません。高い教育水準を持ち、国際的に評価され、信用され、尊敬されるような人、そして、リーダーシップのとれる人材がこれから目指すべき日本人像と考えます。

ブラジルに行った時に日系人の方がどう評価されているか知る機会がありました。勤勉で真面目、そういう高い評価で賞賛されていました。私はこれからの日本人もこのイメージでいいと思います。真面目で勤勉和を大切にしているか。日本人が持つべき美風を積極的に評価し、現代に取り戻すことです。そして何でもチャレンジしていく子が育つ社会環境にすべきだと思います。

行き過ぎた「ゆとり」教育を改め、レベルをアップさせます。具体的には教育の3つの達成目標（学力・体力・規律ある態度）をもっとしっかり身につけさせる。



今後の政策・地元にかける思いを語る。

今の日本の教育は、なまぬるい。競争を煽るような事をしたくないなんていうのはナセンス。競争に勝って、勝ち上がっていった時に、弱い人にも手を差し伸べるような人を育成したい。

こういった点から教育の力、カリキュラムと教員の指導力の向上を進めます。人事評価制度をもっと取り入れ、給与にも反映させるような成果主義を取り入れて行く。

小中一貫校や中高一貫校も検討すべきです。出来る子をもっと伸ばすということとで飛び級も奨励されるべきです。同時に、勉強の遅れている子には、サポートが必要で。

今は学校だけでは授業についていけない子は塾や家庭教師を頼まなくてはならない。受験勉強も同様です。こうなると、親の経済状態で塾に行けない子供は不利になってしまいます。私はこの解決の一助として、定年を迎えた教師を中心に放課

後や休日などに学習サポートをする公的な仕組みをつくることを提言します。

また、埼玉県で生まれ育ち、学び、他県や海外や活躍した後、その経験や成果を埼玉県に持ち帰って、後進の指導にあたることで、良い教育のサイクル、連鎖をつくっていきたくと思っています。

社会人への多様な人材育成・国際教育の充実も必要です。勤労者から高齢者まで、様々な機会をとらえて地域、社会の中で人材づくりをサポートし、自らも学ぶ、こういったモデルを私は埼玉、三郷から発信していきたいと考えています。

平成23年度予算において、鈴木県議の提言が反映されたり、関連した事業を紹介します。(以下同じ)

- 23年度の関連新事業(抜粋)
- グローバル人材育成基金の創出(10億円)
- 留学生ネットワークの構築
- 3年間で日本人の海外留学生倍増
- 中小企業若手社員の海外企業での研修の費用助成

Policy 2 活力ある産業基盤づくり

●制度融資・情報サポートの充実で農業、商工業、中小企業を元気に

●6次産業化や新産業育成とベンチャーを支える人材づくり

●三郷市に研究機関を誘致し、知的産業の企業城下町を

日本の産業は全ての業種に関して世界との競争に直面してしまっています。この大変化に対応するため、既存産業、各企業も企業力競争力強化のための経営革新が求められていきます。しかし、中小企業が大企業に比べて弱いの、資金力と情報力。資金の面は、埼玉県ではかなり力を入れ、他



余地がありません。これは農業や商工業すべての課題です。私はその分野にさらに手厚い支援を積極的に行うよう提言をして参ります。また、第1次産業の農業、2次産業の加工業、3次産業の小売業を足し合わせた6次産業化が注目されていますが、こういった経営の多角化やベンチャー企業の育成とこれらを支える人材育成へのサポートを進めます。

また、商店街は治安の維持やコミュニティを支える機能を持っています。この社会的機能にも着目し、商店街にはNPOやコミュニティビジネスなどの誘致、活動拠

点としての役割を担うよう、支援を行っていきます。私は三郷に科学技術の研究施設を誘致し、ベンチャーを立ち上げることを検討しています。大学の誘致も盛ん言われていますが、それを一歩進めて、もう少し実戦的な企業の研究機関を集積し、三郷で企業城下町を目指し、雇用の創出を図っていきたく考えています。

Policy 3 うるおいある快適な生活環境づくり

●下水道、交通網、社会基盤整備

●コンパクトシティへの発想転換

●三郷市のアイデンティティの確立

●公共事業実施の迅速化に向けた制度見直し

埼玉は47都道府県の中で一番災害にかかる予算が一番少ない住みやすい地域です。そんな中で三郷は、つくばエクспレスや武蔵野線などの鉄道、外かく環状道路などの高速道路もあり、都心に行くにも利便性が高くなっています。私はこれらの強みを活かして

Policy 4

健康で心触れ合う福祉社会づくり

●予防・健康政策を柱に社会保障費を抑制

●福祉・医療・保健体制の整備

●子育て・保育の支援拡充

高齢者の介護施設の受入枠の拡大や施設の整備、また、障害者の雇用促進や医療体制の充実を図ることは勿論しっかりと対応していきます。

そして私が今、必要でありながら一番中途半端になっているのは、病気とか介護にならないいわゆる予防です。

三郷市全体で65歳以上の人口の割合が、現在の12%から、10年後の2015年には24%になると予想されています。以前、三郷の場合、シルバ一元気塾というのがNHKでもとりあげられました。その4年前から医療費がどのくらい削減されたか計算してみたら3,000万円下がったという

病気になるてからの対応をとるというのはあたり前のことですが、各個人にしてみれば、病気や加齢によって身体機能に制限が生じてしまうことでQOL (Quality of Life: 生活の質)は確実に低下します。ですから一歩進んで、いつまでも元気で健康に暮らせることを目指すのが、超高齢化社会に突入する日本の政策の根幹であるべきです。国民医療費について、厚生労働省

●23年度の関連新事業(抜粋)

- 周産期医療体制の充実(前年度比約3倍)
- 小児二次救急の24時間365日体制の確立
- 保育所待機児童の受入枠拡大(4,500人)
- 特別養護老人ホーム等の整備促進(5,908人)
- がん検診受診率向上ムーブメントの創出

さらに便利なまちづくりを推進します。

社会資本の整備は、生活道路や交通安全施設などは勿論のこと、特に下水の普及が課題です。昔の田んぼの用排水路がそのまま下水道になったところもあり、臭気の問題もあり、三郷は市街地ですが、予算の規模が限られている事もあり、今は65%くらいとまだ普及が進んでいないのが実情です。ここを県や国の力を入れて進めていくのが私の役割と考えています。

三郷市の町全体の開発について、現在、中央地区、インターA地区が進められています。区画整理の予定がないところをどうするかが一番の課題です。私としては、福祉や教育産業を含めた複合施設の整備を軸に早急にこれをまとめ上げていくつもりです。



やすいまちづくりを目指すことが重要です。そして、そんな中で三郷という市のイメージを具体的にどうつくるか。これは住民と行政が一体になってつくりあげていかなければなりません。

- 23年度の関連新事業(抜粋)
- つくばエクспレス沿線地域整備(八潮南西地区、都市計画道路補助線、の整備、宅地造成など)
- 八潮南東地区、都市計画道路補助線、の整備、宅地造成など)
- 西線の整備、鉄道東側の宅地造成など)
- 三郷中央地区、都市計画道路補助線、の整備、宅地造成など)
- 社会資本整備総合交付金河川事業(大塚川下流排水機場設備改修)
- 水辺再生100プラン推進費(第一号公園設備整備など)
- みさと公園施設整備
- 地方特定道路改修整備(室加流山線八条橋、葛飾町、松伏線、越谷流山線、越谷流山線小倉橋など)



今、次に進める
政策を語る。

Policy 5
暮らしの
安心安全の追求

- 地域コミュニティの「絆」を再生
- 防犯・防災体制の整備の促進
- 危機管理体制の整備

埼玉県は犯罪が平成16年のピーク時(犯罪発生件数18万1350件)から平成22年度で10万6228件まで減らすことが出来ました。これは警察官の増員は勿論のこと、私たちがつくった「防犯のまちづくり推進条例」を指針にした自主防犯グループを県民の皆様が組織し、5.121団体(平成22年度末)という全国一の組織数を立ち上げ、地域防犯に取り組んできた成果であると思います。今後も地域防犯体制の充実や災害への対策に努力して参ります。

その一方で誰とも地域内で人と人とのつながりが希薄となり、誰ともつながれない「無縁社会」の危機が迫ってきています。こうなるとお年寄りなど社会的弱者が孤

立してしまいません。この問題に対応するためにもこれからは地域の「絆」の構築に精力的に取り組むべきと考えます。これは、地域住民、NPO、企業、行政が体となってネットワークをつくる必要があります。そこには商店街など地域商店や事業所も積極的にいかかわれる仕組みを導入します。また、助け合いの意識を醸成、共有するために、学校教育はもちろんのこと、地域社会としても意識改革を進めるべく、行政が積極的にリーダーシップを取っていくべきです。

23年度の関連新事業(抜粋)

- 高齢者と地域のつながり再生事業
- 防災ヘリコプターの新規導入
- 警察官の増員と犯罪抑止総合対策
- 児童虐待防止地域見守り体制の整備

Policy 6
それらを実現させる
機構の改革

- 県議会議員の定数削減と任期制限
- 政策提案型議会への転換
- 議会に予算編成権を付与
- 情報公開とアカウンタビリティの推進

県議会については現在の定数は削減の方向で議論してきます。議員定数を減らすという声もありますが、それは議員がどのよう to 民意をフィードバックしていくかです。委員会をインターネットでオープンにしていくとか、議会を日曜休日にも開会して、傍聴し易い仕組みを導入。また委員会の審議過程の公開もさらに進めていくべきです。また、政治の私物化を招かないためにも、県議にもある一定の任期制限も設けるべきだと思います。

これは是非とも実現していただきたいと考えています。全国的に首長と議会の対立が話題になっていますが、二元代表制というのは、首長の暴走を許さないための先人の知恵です。それが評価されていないのは、やはり、長い間、首長と議会のなれ合い体質と思われる事例が多かったため、有権者の信頼を得られにくくなったことが最大の要因と考えます。議会の公開とアカウンタビリティ(説明責任)を進めて、信頼される議会改革をさらに進めるのが私の主張です。



さらに、予算編成権を一定議会に持たせることを提案していきたくと思います。民意の集約と反映が議員の任務であるわけですが、現在のチェック機能をさらに充実させ、民意をよりスピーディかつ強力に反映させるには、

鈴木よしひろブログをご覧ください。

日々の活動や政治への思いなどを折に触れて、掲載しています。是非、ご一読下さい。携帯でもご覧頂けます。

Ameba政治家オフィシャルブログ認定 <http://ameblo.jp/suzuki-yoshihiro/>



ホームページ公開中 <http://www.yosshisuzuki.com>



埼玉県議会議員

鈴木よしひろ 48歳

連絡先/〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-347

鈴木よしひろプロフィール

●昭和37年11月生●三郷市立吹上小〜栄中学〜日本大学第一高校〜日本大学理工学部卒●参議院議員(故)土屋義彦秘書〜平成11年、埼玉県議会議員初当選(現在3期) ●(社)越谷法人会青年部監事、市内小学校PTA顧問、県立三郷高校PTA・後援会顧問、三郷市スポーツ少年団顧問、三郷市トルシニアチーム会長、三郷市サッカー協会会長、三郷市囲碁将棋連盟顧問等

県政についての
ご意見ご要望は右記へ

TEL.948-2070 FAX.948-2071

●E-mail yosshisuzuki@gmail.com